

令和 6 年 2 月 1 3 日

各務原市長 浅野 健司 様

第 9 期かかみがはら高齢者総合プラン
策定委員会委員長 柴崎 建

第 9 期かかみがはら高齢者総合プランについて（答申）（案）

令和 4 年 12 月 19 日付け 4 各高福第 3 6 0 号にて諮問のあった「第 9 期かかみがはら高齢者総合プラン（令和 6 年度～令和 8 年度）」の策定について、審議を重ねた結果、次の結論に達したので答申します。

答 申

内閣府の「令和 5 年版高齢社会白書」では、我が国の 65 歳以上の高齢者人口は、令和 4 年 10 月 1 日現在で 3,624 万人、総人口に占める高齢化率は 29.0%となっています。

本市においては、高齢者人口は 4 万人台で推移することが見込まれる一方、生産年齢人口、年少人口が減少していくことから、高齢化率は上昇傾向が続き、令和 22 年には 33.8%、市民の約 3 人に 1 人が高齢者になると見込まれています。

このような状況を踏まえ、第 9 期かかみがはら高齢者総合プランでは、いわゆる団塊ジュニア世代が 65 歳以上となる令和 22（2040）年に向けて、高齢者が最期まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進を目指し、次の取り組みを行うことを要望します。

また、現在の介護保険制度を持続可能なものとし、次世代に引き継いでいくため、特に介護保険料については、中長期的な視野を持ち対応していただくことを要望します。

記

1 健康づくり・フレイル予防のための取り組み

人生 100 年時代を見据え、高齢者ができる限り住み慣れた地域で健やかに過ごすことができるよう、自らの健康状態に関心を持ち、意識的に生活習慣の改善を図ることに繋がるような健康づくり・フレイル予防の取り組みを推進してください。

2 認知症施策の推進

認知症になっても、本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、医療機関、介護事業所、地域包括支援センター等と連携を図りながら、認知症の正しい知識の普及や支援体制の整備を進めてください。

3 生きがいつくりの推進

高齢者が地域社会において自立した生活を送るためには、生活機能の維持のみならず、生きがいを持って生活していくことが重要であるため、高齢者の社会参加の推進と高齢者の日常生活上の支援体制の充実を一体的に図り、介護予防・重度化防止に繋げてください。

4 多職種連携の推進

要介護者の多くは介護のみならず医療も必要としている状態にあり、包括的な支援を行う必要があります。

医療と介護の連携（多職種連携）を推進し、包括的な支援を必要としている高齢者の状況や支援の方法などを共有できる体制を構築してください。

5 安心して暮らすための支援

高齢化に伴って、健康に不安のある高齢者やひとり暮らし高齢者など、日常生活において何らかの支援を必要とする高齢者は増加しています。

高齢者が最期まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、各種生活支援サービスの充実を進めてください。

6 地域で暮らし、地域で支える環境づくり

高齢者の健康長寿を祝福する市民意識を高め、高齢者福祉や介護についての正しい理解の普及を図り、すべての市民の連帯と協力を通じた高齢者にやさしいまちづくりを進めてください。

7 介護保険事業の適正な運営

高齢者が安心して人生の最期まで住み慣れた地域で暮らしていくために、持続的で安定的な介護保険事業の運営を行ってください。また、感染症の流行や豪雨などの災害時における介護サービス継続のための体制づくりを進めてください。